

# 大分県における食用カンショの生産力・品質向上

## 第1報 早出し栽培について

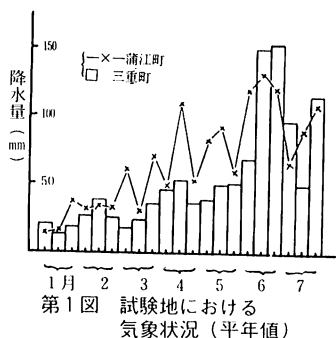
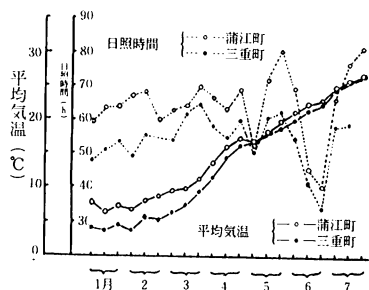
三苫功吉・乙部逸夫・上原登喜男・中野静思 (大分県農業技術センター)

MITOMA, K., I. OTOBE, T. UEHARA and S. NAKANO: The Yield and Quality Improvements of Sweet Potato in Oita Prefecture. 1. Early Planting of Sweet Potato

大分県の主要野菜の1つである食用カンショは県の南西部を中心に栽培され、市場へは9月から翌年5月頃まで出荷されている。このため周年出荷体制が市場から要請されている。また4～8月は価格の上からも有利な時期であることから、県のカンショ生産の安定化のため、5～8月の早出し栽培技術について検討した。

### 1. 試験方法

試験は1981～82年に、主要産地の大野郡三重町と、より早出し栽培に適すると思われる県南の南海部郡蒲江町の2カ所で行った(第1図)。



第1図 試験地における気象状況(平年値)

栽培様式として、畦間に水を貯めるマルチ栽培を基本に、トンネル資材にビニール及びポリフィルムを用い、露地、ハウス内栽培を行った。また有孔ポリトンネル、一畦トンネル及び無トンネル栽培も検討した。

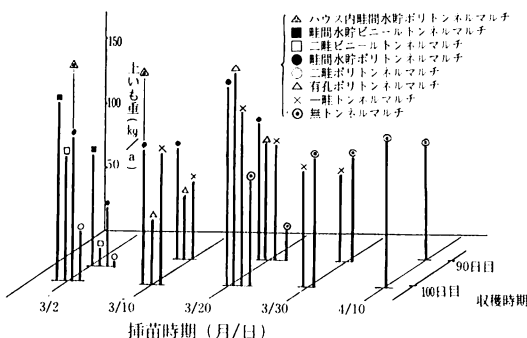
挿苗時期は、蒲江町で2月20日～4月10日(1981年)に6回、三重町では2月26日～4月14日(1982年)に5回とした。施肥量(kg/a)はN:0.5, P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>:0.8, K<sub>2</sub>O:1.2, 苦土石灰:10.0としたが、三重町においては熟化化しているためNは無施用とした。

### 2. 試験結果及び考察

1) 各種トンネルの温度効果: 畦間水貯めポリトンネル区が地温, トンネル内気温ともに温度較差が小さく最も安

定していた。ビニールトンネル区では畦間水貯めでも昼間50℃を超える日が多かった。

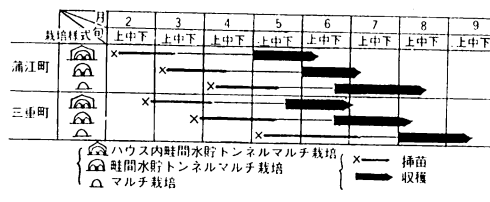
2) 蒲江町での収量: ハウス内の畦間水貯めトンネルマルチ区は2月上旬の挿苗で100日目1.7t/10aを得た。また露地では3月上～中旬の挿苗で、水貯めポリトンネルマルチ区が1tを超えた。有孔ポリトンネルマルチ区及び一畦トンネルマルチ区は安定性に欠けるとされた。



第2図 蒲江町における収量

3) 三重町での収量: ハウス内の畦間水貯めトンネルマルチ栽培の2月26日挿苗, 90日目収穫で1t/10aを超え、また露地における同栽培法の3月23日挿苗, 90日目収穫で1tを超えた。

以上のことから、低温条件下で早出し栽培をねらったカンショ栽培は、畦間に水を貯めたポリトンネルマルチ栽培が有効であると認められた。また、この方式は密閉式であることから突風、強風にも強く、毎日の開閉労力も必要としないなど省力的でかつ実用的でもあった。この方式による挿苗前進限界は、畦間の水温が20℃以上になる時期をめやすとして、露地栽培では最低気温が5℃以上、ハウス内栽培では2～3℃以上になった頃と思われる。従って試験地の栽培暦は第3図の通りとした。また品種は早期より着色のよいサベニがよく、更に早挿しでは1株当たり着いも数が少ないため普通栽培より栽植本数を多くする必要があり、10a当たり6,000～8,000本が適当と考えられた。



第3図 食用カンショの早出し栽培暦